

今年も遅ればせながら「NK オンリーワン通信」を発行する運びとなった。発行当初は、県教育委員会が推進する「オンリーワンスクール推進事業研究開発校」としての取組を中心とした内容に特化してきたが3年を経過し、研究開発校から外れたものの、昨年度開催した「地域の声を聞く会」や「学校評議員会・学校関係者評価会議」に出席いただいた皆様方からは「今後も継続して取り組み、発展させていくように」との激励の言葉を頂戴し、意を強くした次第である。しかし、今後は学校の自主財源での取組としていくほかないため、事業規模の拡大はどうも望むべくもないが、地に足をつけた新潟北高校独自の取組として歩を刻んでいかなければならないだろう。

今後は、オンリーワンの取組を紹介していくことはもちろんではあるが、学校の諸行事や他の活動も折に触れて紹介していきたいと思っているので、よろしくお願いします。

発行：新潟北高等学校

24051230



入学式～4/9（月）

総勢276名の生徒が入学



今年度は創立30周年の記念の年であり、その記念すべき年に入学した新入生の前途はいかに……！！

さて、そもそも本校に「北」の文字が使われた理由を知っているだろうか？昭和58年当時の新潟市の北（北部）に位置していたから、なあーんて考えたそこの君、考えが甘いねえ。じゃあ、その点について紹介しておこう。

・その当時として新潟ではまだ使われていない「北」の文字を採用した。「北」には、やがて来る

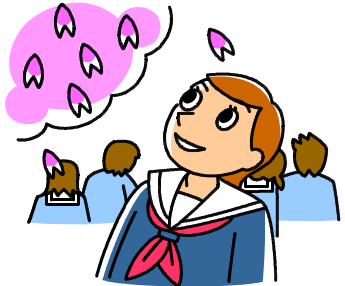
春の暗示があり、全国で「北」の校名を持つ学校が百校余りもあって進学やスポーツに活躍している。そこから校名は生まれた。（『創立十周年記念誌』から抜粋）

ついでに、校章の由来についても紹介しよう。

- ・セツ星とその光を図案化、若人の持つエネルギーを「えんじ色」で表して中央の色とし、周辺に雪の白を配す。星のように人々から仰ぎみられるような人になろう、こんな願いをもった図案を依頼してつくられたもの、とされる。（『創立十周年記念誌』から抜粋）

こうした先人たちの思いは脈々と受け継がれているはずであると同時に、これからも生徒はもちろん、教職員も受け継いでいかなければならない精神だと考える。今後も続く

新潟「北」高等学校の未来のために！



校外体験学習の巻～4/27（金）

本校の総合学習は、「北高タイム」という名称であり、次のような目標と具体的な方針に基づいて計画されている。

- (1) 問題を主体的に発見し、多様な他者と協同しながら問題を解決・克服しようとする生徒を育てる。
- (2) 職業や自己のあり方の探求をとおして、多様な問題解決の方法とその背後にあるものの見方・考え方を身につける。
- (3) 志を立てて自らの目標を設定し、進路実現のために前向きに努力を続けられる生徒を育てる。

さて、総合学習のオリエンテーションを終えた4月27日（金）に全学年で体験学習を実施した。内容は次のとおり。

学 年	テ ー マ	行き先
1 年	共通な体験をとおした他者理解	東北電力ビックスワンスタジアム (当初の弥彦山を積雪のため変更)
2 年	進路実現に向けて（施設見学・講義体験）	新潟県立大学等県内大学・短大 新潟情報専門学校等県内各種専門学校
3 年	自己の生き方と社会への関わり	県北交流館「八幡」等

この紙面では、3年生の体験学習について紹介しよう。
今回は、①「いかの塩からづくり」、②「マイ箸づくり」、③「塩づくり」、④「つる細工」、⑤「イチゴのマスコットづくり」、⑥「松ぼっくりのフクロウづくり」の各体験に没頭(^_^)v

村上の山北町に行って「つる細工」を教えていただいた。ぶどうのつるを3種類くらい使ってかごを作った。最初は難しかったけど、優しく教えていただいたので上手く作ることができました。こうもさんはかごの他にもかばんを1ヶ月近くかけて作っていると言っていました。今回の体験学習をとおして自然を学べてよかったです。

〈江川和也〉



【マイ箸づくり】



体験学習ではいかの塩からをつくりました。

難しかったのは、いかを捌くことと、袋に入っている肝きもをやぶかないように取り出すことです。

皆と楽しく体験ができ、とても良い思い出になりました。

家でも作ってみたいと思いました。

〈服部結花〉

【いかの塩からづくり】

思い出すなあ。そういえば、小刀で鉛筆を削ったっけ。(こんなこと言うと歳がバレちゃう～(>_<)) 一口味見をさせてもらったいかの塩からはうまかった～(^_-)

さて、こうした体験を一過性のものとして終わらせるのではなく、今後の人生において身のあるものとしていくような姿勢を持ってもらいたいと思っているのは本校の教職員全員の願いであり、こうした考えで今後も指導していきたいと思っている。

道具を使い、自分の手を操って何かを作り出すことは人が持つ根源的な営みのはずである。機械化され、便利になった高度文明社会だからこそ、ことさら大切にしなければならないのだ。さあて、家に帰って久しぶりに鉛筆でも削ってみようか！！

この広報は、新潟北高等学校ホームページ

http://www.niigataki-h.nein.ed.jp/gakkou/top_gakkou.htmlにも掲載しています。